A-2

湯ヶ島周辺部

～広がる洪作の世界～

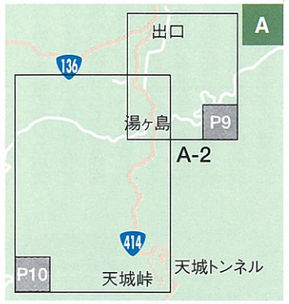
馬飛ばしコース（西）

春になると、洪作たちは筏場へ"馬飛ばし"（草競馬）を見に行きました。長野を抜け、国士峠で一休みし、湯ヶ島中心部から九kmほど西へ向った山中の小さい平坦地である筏場まで、一気に駆けつけました。現在は、馬飛ばしが行われた敷地に入ることができませんが、車で二十分ぐらい山道を走れば、子どもたちが息をはずませて駆けたその距離感をつかむことができます。

門野原・出口コース（北）

湯ヶ島から北へ二kmの門野原には、小学校の校長をしていた伯父の家が、現在もあります。洪作は、小学校の頃には、歩いて伯父の家を訪ねました。

その北に並ぶ地名は、馬車やバスに乗って、沼津や三島に向かう時に通った集落の名です。中でも、湯ヶ島から約五kmの"出口"は、馬車が途中休憩をした場所であり、洪作にとって、ここまでが身近に感じられるエリアでした。逆に、沼津方面から湯ヶ島に帰る場合には、出口を過ぎるとまもなく天城の連山が見えてきて、洪作の郷愁を誘いました。



椎茸爺さんコース（東）

洪作の父方の祖父である"椎茸爺さん"は、椎茸の研究のために、天城山中の棚場というところに小屋を建てて住んでいました。洪作は、いとこの唐平とともに持越を越え、約八kmの道を歩いて祖父に会いに行き、その人柄に触れて感動します。現在の棚場地区には人家が一軒もなく、祖父の小屋がどこにあったのかは不明です。しかし、持越から棚場までは森の中の未舗装の山道が残っており、車で通り抜けるだけでも、洪作たちが歩いた山中の雰囲気を感じることができます。

天城トンネルコース（南）

湯ヶ島から十km南には、『伊豆の踊子』で有名な天城隧道（旧天城トンネル）があります。洪作たちにとって天城トンネルはとても魅力的で、度々訪れていますが、作品の中では、叔母のさき子が亡くなった時に子どもたちみんなで出かける場面と、おぬい婆さんと下田に行く時に通る場面などに登場します。

その途中には、犬飼先生が飛び込もうとした浄蓮の滝、井上靖の資料展示コーナーや移築された母屋がある昭和の森伊豆近代文学博物館、猟銃文学碑のある滑沢渓谷などがあり、天城のみどころがいっぱいのコースです。

②棚場

棚場地区には現在、美しいわさび田が広がっています。

③椎茸のほだ木

棚場から吉奈方面に少し下った県道沿いでは、椎茸のほだ木を見ることができます。

①持越

洪作たちは棚場に向う途中で、持越にある親戚の家に立ち寄りました。洪作がその横を通った持越の火見櫓は、現在も同じ位置にあります。

④浄蓮の滝

洪作が勉強を見てもらっていた犬飼先生が神経衰弱になって飛び込もうとした滝です。『伊豆の踊り子』の像もあり、伊豆の有名な観光名所です。

⑤昭和の森伊豆近代文学博物館

伊豆近代文学博物館は、道の駅天城越えの昭和の森会館の中にあります。博物館の中には、伊豆ゆかりの作家120名の資料があり、その中でも井上靖関係の資料が最も多く展示されています。おぬい婆さんと暮らした土蔵の2階の部屋の原寸大復元模型や、壁に埋め込まれた「新しい年」の詩碑もあります。また、庭には旧居跡から母屋が移築されています。

（昭和の森会館　休館：第3水曜日　TEL.0558-85-1110）

土蔵2階の原寸大模型

移築された母屋

新しい年

元日の教室で、先生は黒板に〝新しい年〟と書いた。確かに新しい年であった。先生の顔も新しかったし、生徒たちの顔も新しかった。教室の窓から見える青い空も、明るい陽の散っている校庭も、校庭の水溜りに張っている氷も、眼に映るものみな新しかった。校門も、その向うの街道も、街道を歩いている村の大人たちも、みな新しかった。―それ以後、再び新しい年はやって来ない。幼い日の湯ヶ島小学校の教室の記憶が、年毎に透く、小さく、ゴッホの初期のパステル画のように鮮烈になってゆくだけだ。

井上靖

⑥猟銃文学碑

滑沢渓谷には、井上靖の初期の小説『猟銃』の基となった詩が刻まれた文学碑があります。昭和の森会館から歩いて10分ほどです。文学碑の周辺は、わさび田も見える渓流沿いの素敵な散策路で、おすすめです！

渓流沿いの小道

猟銃文学碑

⑦旧天城トンネル

天城峠の旧道にあり、長さ446m、幅3.5m、高さ3.5m、明治37年（1904）に完成した切り石巻き工法の美しいトンネルです。『伊豆の踊り子』で有名ですが、『しろばんば』や松本清張の『天城越え』など多くの文学作品に登場します。

～『しろばんば』より～

天城のずいどうは、洪作たちには何とも言えず魅力のあるものだった。湯ヶ島部落から峠までは二里近くあったが、ずいどうを見に行くというと、子供たちはその遠さを忘れて、いつもそこまで行ってみようという気になったものであった。洪作はすいどうの入口まで行くと、そこに立って内部を覗いた。ずいどうは石で畳んであるところも、地肌のむき出しになっているところもあり、三十メートル程の長さの間、天井からはずっと水が滴り落ちていた。そのためにずいどうの中の地面は湿っていて、ところどころに水溜りがあった。洪作が立っている入口とは反対側の向うの出口は、洪作のところからは半月状をなして見え、その半月の中に小さい他国の風景が嵌めこまれてあった。

⑩出口

出口の駐車場では、馬車が途中休憩をしました。現在も営業している"出口の黒玉"は、洪作の"おめざ"となった飴玉だと言われています。あなたもひとついかがですか。1袋300円。

出口の黒玉のお店

⑥門野原の伯父の家

湯ヶ島小学校の校長をしていた伯父の石守森之進の家です。モデルとなった石渡家は、門野原のバス停横の路地を西に入ったところにあり、白い土蔵が目印です。個人のお宅なので、外から静かに見学しましょう。

⑤嵯峨沢橋

伯父に連れられて門野原の家に行く途中で渡った橋です。伯父はこの時、「お前のお父さんは昔この橋の下で溺れかかった」などと話しています。もちろん、現在の橋はその後架け替えられたものです。

⑪青羽根

青羽根には、当時、小学校と郵便局、自転車の修繕屋と肉屋がありました。

青羽根郵便局

⑨矢熊橋から天城を望む

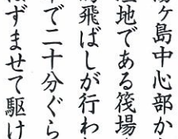
中学生の洪作が帰省する時、「天城が見える！」と言って感動した場所です。

⑧月ヶ瀬

月ヶ瀬には、2軒の親戚があり、1軒は造り酒屋、1軒は農家でした。

⑦小戸橋

門野原と月ヶ瀬の間にある橋で、作品中では"竹藪の横の小さい橋"として登場します。



③筏場の馬飛ばし

③筏場の馬飛ばし

国士峠の向うの上大見地区に入ったところにある小さな平坦地で、毎年春に、草競馬が行われました。現在は工場の敷地になっているため、内部に立ち入ることはできません。

④市山

市山は湯ヶ島の北隣の集落で、現在は伊豆市天城湯ヶ島支所があります。

①長野

運動会の長距離走のゴールとして、また"馬飛ばし"が行われる筏場への通過点として登場する場所です。「日本の棚田100選」に選ばれた荒原の棚田があります。

②国士峠

"馬飛ばし"が行われる筏場へ行く途中、子どもたちが一休みをした場所です。このあたりは、当時は茅の原で、視界が開け、富士山がよく見えました。